

## 1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。  
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

## 2.学校ごとの指標

### 【短期目標】

国語A(95)、国語B(96)、算数A(96)、算数B(98)

## 3.指標に向けての取組

### 【学習の基盤づくり】

- 朝の学力補充の時間における課題克服プリントの徹底(国語、算数の基礎・基本問題)、どんどんカードの活用(目標設定・振り返り)
- 漢字コンクール・漢字検定の実施(漢字コンクール学期に1回、検定は年間1回)
- 小数のかけ算・わり算を含む四則計算 ○ローマ字の読み書きプリント宿題・ミニテスト
- 活用力診断プリントの補充(専科入り込みによる複数体制指導)

### 【授業づくり】

- 基礎・基本の習得と定着
- ・「めあて、見通し、一人学び、学び合い、まとめ」の学習過程の徹底
- ・算数科の重要単元の分割、習熟度別学習指導(全学年)で個に対応した学習指導
- 書く力の育成
- ・1単位時間内に必ず書く活動を位置づけた授業づくり
- ・自分の考えをつくる際の書く材料を提示する授業づくり

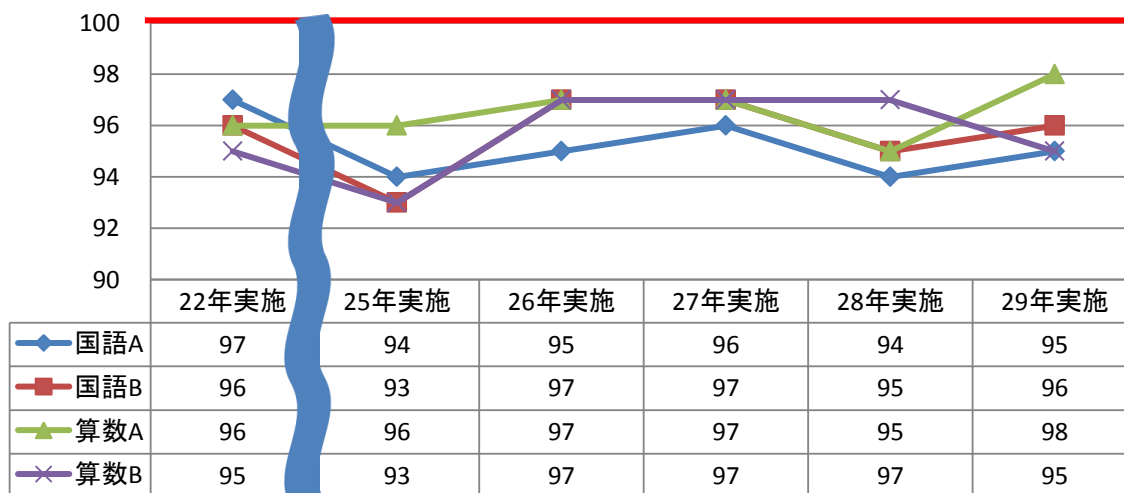
### 【家庭との連携】

- 家庭学習振り返り週間(学期に1回)を実施。(家庭との連携)
- 学力向上通信の定期的な発行と保護者への啓発

## 4.調査結果(全国の平均正答数を100とした標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	95	96	98	95
嘉麻市	98	98	99	98
全国	100	100	100	100

## 推移



## 5.各学校における分析

○算数B以外の教科区分において、短期目標を達成した。これは、これまでの基礎基本の習得と定着に向けた取組の成果である。また、無回答率は0であり、児童が問題に対して情報を関連付けながら考えようとする力が育ってきていると捉える。

しかしながら、全国との比較において、国語Aが-5ポイント、国語Bが-4ポイント、算数Aが-2ポイント、算数Bが-5ポイントの開きが生じている。このことにより、国語・算数のB問題で必要とされている、「問題の意味を読み取る力(読解力)」「読み取ったことをもとに考える力(思考力)」「考えたことを文章でまとめる力(記述力・表現力)」を一層身に付けなければならないと考える。

## 6.各学校における今後の取組

「3 指標に向けての取組」を継続するとともに、児童の実態に応じた取組を構築する。

### 【学習の基盤づくり】

○朝の学力補充の時間における課題克服プリントの徹底(国語科、算数科の基礎・基本問題)、どんどんカードの活用(目標設定・振り返り)

○漢字コンクール・漢字検定の実施(漢字コンクール学期に1回、検定は年間1回)

○活用力診断プリントの補充(専科入り込みによる複数体制指導)

○過去の問題への取組

### 【授業づくり】

○基礎・基本の習得と定着

・「めあて、見通し、一人学び、学び合い、まとめ」の学習過程の徹底

・算数科の重要単元における分割、習熟度別学習指導(全学年)による個に対応した学習指導

○書く力の育成

・1単位時間内に必ず書く活動を位置づけた授業づくり

・自分の考えをつくる際の書く材料を提示する授業づくり

### 【家庭との連携】

○「家庭学習のすすめ」を活用した保護者啓発

○家庭学習振り返り週間(学期に1回)を実施。(10×学年+10)分以上の家庭学習時間を8割以上の児童が確保するようにする。(家庭との連携)

○学力向上通信の定期的な発行と保護者への啓発

## 7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◆ 嘉麻市学力向上推進プランに基づく学力向上検証改善委員会を開催し、有機的に機能させる。そのために、短期検証改善サイクルの実施状況を把握し、好循環に向かうよう適時性のある指導を継続する。

◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。

◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、「家庭学習のすすめ」を活用した指導を徹底させるとともに、個に応じた課題の提示を促す。